



ころの中を見つめよう 博愛を広げるため

国際ロータリー第2750地区
東京多摩グリーンロータリー・クラブ
2011~2012年度

会報

愛と笑いで創ろう友の和・広げよう奉仕の輪



2011.08.03. 第977回例会 No.22-05 2011.8.10発行

司会 SAA・親睦委員会 三田みよ子

点鐘 会長 小泉 博

国家「君が代」斉唱
ロータリーソング 「奉仕の理想」
ソングリーダー 菊池 敏

お客様紹介 会長 小泉 博

岡山西南RC 椎原 裕二様
(株)放送表現教育センター 岡 摂子様
" 戸村美智子様
" 藤村 太一様

会務報告 会長 小泉 博
本日、例会終了後に第4回理事会を行います。

幹事報告 幹事 荒瀧 義機
・例会変更のお知らせが2クラブから届いています。
・地区会員基盤委員長が来週の例会にお越しになる予定になっております。本日、配布しましたロータリーの友とガバナー月信に会員増強についての記載がありますので来週までに読んでおいていただき、討論に参加していただきたいとの連絡がありました。

【 委員会報告 】

出席報告 出席奨励委員 宮村 宏

会員総数	34名
出席義務者数	24名
出席者数	17名
出席義務者	17名
出席義務免除者	6名
事前MU	0名
計	23名

出席率 23/30 = 76.67%
第975回例会(7/20)訂正出席率 80.56%

ニコニコBOX SAA・親睦委員会 山田 文夫
小泉 博 お客様ようこそいらっしゃいました。
朗読楽しみにしております。
萩生田政由 ぐるりん多摩の皆様、本日の卓話
楽しみにしています。

伊澤ケイ子 本日朗読の岡様 戸村様ようこそ。
楽しみにしております。
菊池 敏 お客様ようこそ。
宮村 宏 ぐるりん多摩の皆様いらっしゃいませ
お話し楽しみにしています。
中谷 紘子 また暑くなりますね。
体に気をつけて。
齋藤 誠壽 再三の地震が起きていますので、
お気を付けて下さい。
関岡 俊二 お客様ようこそ。

本日の合計¥8,000(累計¥129,000)

その他報告

幹事報告追加

幹事 荒瀧 義機



7月31日(日) 派遣生の細谷さんを見送りに遠藤カウンセラー、小泉会長、私・幹事の3名で成田へ行ってきました。

ゴルフ部

部長 大松 誠二

・春に予定していましたスクラッチ会が震災の関係で延期となっておりますが8月31日、東京国際にて開催いたします。
・東グループから10月25日に親睦ゴルフコンペの案内がきています。1クラブ4名参加です。

卓話者紹介

プログラム委員長 伊澤ケイ子

本日卓話で朗読いただく「ぐるりん多摩」を私が知ったのは、新聞に掲載されていた「朗読の魅力」の記事を拝見してからでした。日本語の豊かさを広める「ぐるりん多摩」の皆さんが府中で講演されることを知り、その講演を聞き、皆様にも是非聞いていただきたいと思い本日に至りました。
本日、朗読いただくお二人は放送表現教育センター講師でいらっしゃいます。岡摂子さんは、淡々と朗読を

するだけではなく、ドラマティックな朗読をする方です。戸村美智子さんは各所で俳優としても活動され、またNHK後援、高校生の朗読コンクール（東京都）の審査員も務めていらしゃいます。

卓話・・・ドラマティック リーディング
連城三紀彦 作 「花言葉」
朗読 岡 摂子 様

「今ね、電車の中で変な男が・・・」 家に戻り、居間に娘の顔を見つけると秋代は「ただいま」と言う



のも忘れて、そう切り出していた。会社からの帰りの電車で、いつものようにラッシュの人渦にもまわっていると誰かの手が脇腹あたりに触れてきた。電車が駅のホームに滑りこむ間際を狙

って。「痴漢じゃないのかしら。私の体のこのあたりを狙ったのよ」・・・

昨年、スーパーのバーゲンで思いきって買ったコート・・・秋代はなにげなく手を脇のポケットにすべりこませ「あっ」と小さく叫んだ。・・・白い薔薇の花だった。

次の日から帰路の電車は魔法の箱になった。・・・ポケットをまさぐると必ず、茎を短く切った花が一輪入っている。・・・

「まさか。お父さんが・・・」「だってお父さん、最近お母さんとヨリモどしがってるよ。」

テーブルの端っこに煙草の箱を見つけて、秋代は顔をしかめた。自分が立寄ったことを、それとなく知らせたがっているのだ。・・・

十日目の夜。電車が駅に到着する間際、秋代は今までになくはつきりとコートのポケットに滑り込む手を感じとった。・・・秋代は思わずその手首を掴んでいた。間違いなく男の手だった。・・・それを掴んだ秋代の手も緊張で硬直している。

今、ふり返れば誰だかわかる・・・。だが秋代はすぐに手を離し、開いたドアから逃げ出すように跳び出していた。・・・

・・・指をポケットに突っ込むと白菊・・・白い便箋・・・

「何日も私の勝手な行為を見逃してくれてありがとうございました。今日が昨年事故死した妻の命日なので、これで終わりにします。昨年、妻は駅前のスーパーで新しいコートを買ってきました。・・・妻は浮気をしていて逢いびきのためにコートを買ったのです。・・・私は妻の目を盗んでコートを返品してしまい、それを知った妻は・・・そのコートを買い戻しに家を駆け出し、車とぶつかったのです。即死でした。・・・浮気を許した方がよかったかと・・・一年が過ぎ、電車の中で同じコートを着ているあなたを見た・・・私は小さな花を手向け続け、

供養の真似事をしていたのです。

・・・そろそろ四年前の浮気を許す時期かな、と思った。煙草を置いていく夫の手が、一度だけ見たあの男の無骨な手と似ている気がした。

田辺聖子 作 「舌ざわり」
朗読 戸村美智子 様

「あんた、ええ肩、しちえはるなあ」と島尾老人にいわれて、桑子はびっくりした。

「肩?」「はいな。撫肩でその丸みが何ともいえまへんなあ」

ニットのカーディガンなので体の線が出るのだが、桑子はいやでたまらぬのであった。四十二というトシは肉がつかける頃で、軀のどこもかしこも、桑子はぼちゃぼちゃしてきている。腹がぷっくり出て、ウエストのくびれが失われはじめた。・・・夫の良一はことさら腹黒い、人の悪い性格ではないのだがデリカシイがなく、身内のあいだではどれだけズケズケいっても、決して傷つかない、と思い込んでいたふしがある。桑子はそれに腹がたって、「中年太りは人間の自然現象やわっ」

・・・



昔の日本の^{おんな}女子はんは皆そないやった。お母アも女房のふさ子も・・・。それが今時の娘はんは、何や・・・。あんた、ほんまにちょっとだけでええさかいに、肩ア見せてくれへ

んやろか・・・。

桑子はもちろんその出来事を<まかして屋>の誰にも語らない。夫の良一にもしゃべらない。夫はあいかわらず、プスの太っちょの間抜け、と桑子をからかいながら、ぼちゃぼちゃ太りの桑子がまんざら、ふた目と見られぬほどキライ、というのではないようである。

島尾老人のところからまた申し込みがあるかと思っただ、それからずうとなくて桑子はあちこち呼ばれ、忙しかった。市役所の福祉の人から老人の噂を聞いたのは、彼が亡くなってから三ヶ月もたってのちであった。電話をかけるつもりらしく、受話器を握ったまま、倒れ、こと切れていたというが、「電話のメモにあったん、<まかして屋>の番号でしたデ」と福祉サービスの人は言った。

桑子は「法楽、法楽」といった老人の声と、羽毛のような舌ざわりを思い出した。「そうか・・・おじいちゃん、お母アはんやふさ子さんの肩にめぐり会いはったか」

桑子は自分の撫肩がいやでなくなっている。

たしかに、ドラマティックな朗読でした。

お礼と点鐘 会長 小泉 博

(今週の担当： 片山 哲也)